

(案)

様式第1号

自然環境保全計画書

- 1 開発区域の所在地 静岡県静岡市葵区田代
- 2 事業の種類 新幹線鉄道の建設
(宿舎等工事、工事施工ヤードA造成作業等、トンネル工事施工ヤード造成作業等)
- 3 事業者住所 愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番4号
氏名又は名称 東海旅客鉄道株式会社
- 4 開発区域の面積 ○○.○平方メートル
(全体事業面積11.2万平方メートル)
~~(ヤード造成作業等、宿舎等工事)~~

5 開発区域の概要

(1) 位置

静岡市葵区田代に非常口を2箇所(西俣、千石)、静岡市葵区田代に坑口(導水路トンネル)を1箇所(榎島)、静岡市葵区田代に坑口(工事用道路トンネル)を2箇所(西俣、千石)、静岡市葵区田代に宿舎を3箇所(西俣、千石、榎島)、静岡市葵区田代に工事施工ヤードを1箇所(千石沢)計画する。

※詳細な位置については、「位置図」を参照

(2) 地形

開発区域周辺は、南アルプス地域において赤石山脈と呼ばれ、北端に甲斐駒ヶ岳が位置し、間ノ岳の南で稜線は南北に併走する2つの山脈に分かれ、大井川の源流地域となる谷を形成する。開発区域はこの併走する稜線に挟まれた地域に分布する。東側の稜線は、策ヶ岳等を経て安倍川の源流域に至る。西側の稜線は赤石山脈の主脈であり、塩見岳、荒川三山(東岳・荒川岳・前岳)を経て、山脈の主峰赤石岳に至る。

(3) 地質

開発区域周辺は、南アルプス地域において赤石山脈と呼ばれ、北端に甲斐駒ヶ岳が位置し、間ノ岳の南で稜線は南北に併走する2つの山脈に分かれ、大井川の源流地域となる谷を形成する。開発区域はこの併走する稜線に挟まれた地域に分布する。東側の稜線は、策ヶ岳等を経て安倍川の源流域に至る。西側の稜線は赤石山脈の主脈であり、塩見岳、荒川三山(東岳・荒川岳・前岳)を経て、山脈の主峰赤石岳に至る。

(案)

- (4) 開発区域内森林面積 7. 7万平方メートル
~~(ヤード造成作業等、宿舎等工事)~~
(※図面や7(2)と整合がとれるようにしてください。)

※開発区域内の森林面積を航空写真で推定した値を記載。

- うち伐開面積 6. 6万平方メートル
~~(ヤード造成作業等、宿舎等工事)~~
(※図面や7(2)と整合がとれるようにしてください。)

6 自然環境保全に対する基本的考えと具体的に構ずる措置

(1) 基本的考え

環境保全措置の検討にあたっては、ふじのくに生物多様性地域戦略に記載の保護方針に沿って、以下に示す考え方を基本とした。

- ア 環境保全措置の検討にあたっては、環境への影響を回避又は低減することを優先し、~~これらの検討結果を踏まえ、必要な場合に本事業の実施により損なわれる環境要素の持つ環境の保全の観点からの価値を代償するための代償措置を検討する。~~行う。
- イ 環境保全措置の実施時期、実施期間等は計画の熟度に対応し、関係機関と連携を取りつつ適切に選定する。
- ウ 環境保全措置についての複数の案の比較検討、実行可能なより良い技術が取りいれられているか否か妥当性の検証等を通じて、講じようとする環境保全措置の妥当性を検証し、適切な措置を講ずる。

(2) 具体的に講ずる措置

・別添の「静岡県内中央新幹線建設工事に伴う宿舎等工事における環境保全について平成30(2018)年9月」内の自然環境に係る部分(第3章のうち3-4-1、3-4-4、3-5を除く部分及び第4章)、「静岡県内中央新幹線建設工事に伴う工事施工ヤードA造成作業等(宿舎等工事関連)における環境保全について平成31年(2019年)3月」内の自然環境に係る部分(第3章のうち3-4-3、3-5を除く部分及び第4章)及び「中央新幹線南アルプストンネル新設(静岡工区)工事及び静岡県内導水路トンネル新設工事における環境保全について(トンネル工事施工ヤード造成作業等)令和元年5月」内の自然環境に係る部分(第3章のうち3-4-1、3-4-4、3-5を除く部分及び第4章)に記載のほか、静岡県中央新幹線環境保全連絡会議(生物多様性部会等)での対話で合意を得た内容を遵守するとともに、静岡県中央新幹線対策本部から提出される意見書等の内容を尊重する。

※ 内容庁内調整中

(案)

7 緑化実施計画

(1) 概要

工事により生じる法面は工事の進捗に合わせて早期に土砂流出防止や外来植物の進入防止に有効な、在来種による法面緑化を実施する。詳細な緑化方法については、専門家や地権者等の意見を踏まえたうえで、森林法等の関係法令の手続きにおいて、静岡市等の関係箇所と協議のうえ決定する。

(2) 既存緑地の現況及び活用方法

ア 現況（現存植生図による）

(ア) 西俣ヤード（西俣非常口、抗口（工事用道路トンネル）、西俣宿舎）

区分	主要樹種	面積	樹令	疎密度	下層植生の概要	備考
人工林	カラマツ	2,310m ² (残置0m ²)	63年	疎 ⊙ 密	カラマツ植林等	
天然林	ツガ シラベ カラマツ 広葉樹	3,902m ² (" 0m ²)	72年	疎 ⊙ 密		
その他 (原野等)	原野	14,788m ² (" 0m ²)	-	-	-	
合計		21,000m ² (" 0m ²)				

(イ) 千石非常口ヤード

区分	主要樹種	面積	樹令	疎密度	下層植生の概要	備考
人工林	カラマツ	6,815m ² (残置0m ²)	66年	疎 ⊙ 密	カラマツ植林等	
天然林	モミ ツガ	592m ² (" 0m ²)	83年	疎 ⊙ 密		
その他 (原野等)		470m ² (" 0m ²)	-	-	-	
合計		7,877m ² (" 0m ²)				

(案)

(ウ) 千石抗口 (工事用道路トンネル) ヤード

※現在森林法に基づく手続き準備中。計画が固まった段階で事業計画変更届にて提出

区分	主要樹種	面積	樹令	疎密度	下層植生の概要	備考
人工林		m ² (残置0m ²)	年	疎 中 密		
天然林		m ² (" 0m ²)	年	疎 中 密		
その他 (原野等)		m ² (" 0m ²)				
合計		m ² (" 0m ²)				

(エ) 千石宿舎ヤード

区分	主要樹種	面積	樹令	疎密度	下層植生の概要	備考
人工林	カラマツ	9,452m ² (残置0m ²)	10~59 年	疎 Ⓞ 密	伐採跡地群落 ウラジロモミ植 林等	
天然林	カラマツ 広葉樹	6,066m ² (" 0m ²)	82年	疎 Ⓞ 密		
その他 (原野等)	道路	15m ² (" 0m ²)	-	-	-	
合計		15,533m ² (" 0m ²)				

(オ) 工事施工ヤードA

区分	主要樹種	面積	樹令	疎密度	下層植生の概要	備考
人工林	カラマツ	1,226m ² (残置0m ²)	62年	疎 Ⓞ 密	ウラジロモミ植 林等	
天然林	ツガ 広葉樹	4,193m ² (" 0m ²)	83年	疎 Ⓞ 密		
その他 (原野等)		36m ² (" 0m ²)	-	-	-	
合計		5,455m ² (" 0m ²)				

(案)

(カ) 樫島ヤード (樫島宿舎、坑口 (導水路トンネル) ヤード)

区分	主要樹種	面積	樹令	疎密度	下層植生の概要	備考
人工林	ヒノキ カラマツ	18,820m ² (残置 10,947m ²)	75年	疎 ⊕ 密	ウラジロモミ 植林等	
天然林	ツガ ヒメコマツ 広葉樹	2,545m ² (" 0m ²)	95年 31年	疎 ⊕ 密		
その他 (原野等)	原野	1,541m ² (" 327m ²)	-	-	-	
5条森林 以外		35,313m ² (" 20,560m ²)	-	-	-	
合計		58,219m ² (" 31,834m ²)				

イ 既存林の活用方法

活用しない

※残置森林の取扱い (何かに使うか、残置のままか) と 伐採森林の取扱い (伐採木の利用方法、処分方法) について文章で記載をお願いします。

(案)

(3) 緑化場所別植樹計画 ※詳細は今後、静岡市等の関係箇所と協議のうえ決定。

緑化場所		西俣ヤード	千石非常口ヤード	坑口（工事用道路）ヤード	
面積		17,182㎡	5,311㎡		
植栽内容	区分	総数 樹種別本数	総数 樹種別本数	総数 樹種別本数	
	高木	苗木の樹高			
		3.0m 以上			
		// 樹高 1.5m 以上 3.0m 未満			
	中木	// 樹高 0.5m 以上 1.5m 未満	カラマツ（仮想定樹種） 3,437本	カラマツ（仮想定樹種） 1,063本	
		// 樹高 0.5m 未満			
	低木	// 樹高 0.5m 未満			
	種子吹付等（草本木本別）		779㎡	2,021㎡	
	計		カラマツ（仮想定樹種） 3,437本	カラマツ（仮想定樹種） 1,063本	
	土壌条件の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・地質：白根層群（主に粘板岩・砂岩頁岩互層） ・表層：未固結堆積層（主に河床堆積物、沖積錐堆積物、玉石混じり砂礫） 		
備考		工事完了後は、原則現状回復		計画が固まった段階で事業計画変更届にて提出	

(案)

緑化場所		千石宿舎ヤード	工事施工ヤードA	樫島ヤード	
面積		11,059㎡	5,455㎡	10,608㎡	
植栽内容	区分	総数 樹種別本数	総数 樹種別本数	総数 樹種別本数	
	高木	苗木の樹高			
		3.0m 以上			
		// 樹高 1.5m 以上 3.0m 未満			
	中木	// 樹高 0.5m 以上 1.5m 未満	カラマツ（仮想定 樹種） 2,212本	カラマツ（仮想定 樹種） 1,091本	カラマツ（仮想定 樹種） 2,120本
		// 樹高 0.5m 未満			
	低木	// 樹高 0.5m 未満			
	種子吹付等 (草本木本別)		4,248㎡	※401㎡	325 ㎡
	計		カラマツ（仮想定 樹種） 2,212本	カラマツ（仮想定 樹種） 1,091本	カラマツ（仮想定 樹種） 2,120本
	土壌条件の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・地質：白根層群（主に粘板岩・砂岩頁岩互層） ・表層：未固結堆積層（主に河床堆積物、沖積錐堆積物、玉石混じり砂礫） 		
備考		工事完了後は、原則現状回復 ※工事中のみ安全対策として施工			

(案)

緑化場所		合計	
面積		49,605m ²	
植栽内容	区分	総数 樹種別本数	
	高木	苗木の樹高 3.0m 以上	
		〃 樹高 1.5m 以上 3.0m 未満	
		〃 樹高 0.5m 以上 1.5m 未満	カラマツ (仮想定樹種) 9,923本
	〃 樹高 0.5m 未満		
	中木	〃 樹高 0.5m 以上	
	低木	〃 樹高 0.5m 未満	
	種子吹付等 (草本木本別)		7,373m ² ※7,774m ²
	計		9,923 本
	土壌条件の概要		
	備考		※工事中のみ安全対策として 施工

(案)

8 造成計画及び残土の処理（表土の利用方法）

(1) 西俣ヤード（西俣非常口、坑口（工事中道路トンネル）、西俣宿舎）

種 別	移動土量	表土の処理方法		残土の処理方法	
		利用方法	仮置き場及び保管方法	処理方法	捨場及びその方法
切土量	5.050m ³ (内表土量 m ³)				
盛土量	11.838m ³				
残土量	-8.103m ³				

※残土量 = (切土量 - 盛土量) ÷ 0.9

(2) 千石非常口ヤード

種 別	移動土量	表土の処理方法		残土の処理方法	
		利用方法	仮置き場及び保管方法	処理方法	捨場及びその方法
切土量	22.559m ³ (内表土量 m ³)				
盛土量	0.513m ³				
残土量	21.990m ³				

※残土量 = (切土量 - 盛土量) ÷ 0.9

(3) 千石坑口（工事中道路トンネル）ヤード

※計画が固まった段階で事業計画変更届にて提出

種 別	移動土量	表土の処理方法		残土の処理方法	
		利用方法	仮置き場及び保管方法	処理方法	捨場及びその方法
切土量	m ³ (内表土量 m ³)				
盛土量	m ³				
残土量	m ³				

※残土量 = (切土量 - 盛土量) ÷ 0.9

(案)

(4) 千石宿舎ヤード

種 別	移動土量	表土の処理方法		残土の処理方法	
		利用方法	仮置き場及び保管方法	処理方法	捨場及びその方法
切土量	2.305m ³ (内表土量 m ³)				
盛土量	2.304m ³				
残土量	-0.230m ³				

※残土量 = (切土量 - 盛土量) ÷ 0.9

(5) 工事施工ヤードA

種 別	移動土量	表土の処理方法		残土の処理方法	
		利用方法	仮置き場及び保管方法	処理方法	捨場及びその方法
切土量	1.742m ³ (内表土量 m ³)				
盛土量	0.998m ³				
残土量	0.570m ³				

※残土量 = (切土量 - 盛土量) ÷ 0.9

(6) 榎島ヤード (榎島宿舎、坑口 (導水路トンネル) ヤード)

種 別	移動土量	表土の処理方法		残土の処理方法	
		利用方法	仮置き場及び保管方法	処理方法	捨場及びその方法
切土量	3.638m ³ (内表土量 m ³)				
盛土量	9.119m ³				
残土量	-6.494m ³				

※残土量 = (切土量 - 盛土量) ÷ 0.9

(案)

(7) 合計

種 別	移動土量	表土の処理方法		残土の処理方法	
		利用方法	仮置き場及び保管方法	処理方法	捨場及びその方法
切土量	35.294m ³ (内表土量 m ³)			盛土に使用	
盛土量	24.772m ³				
残土量	7.770m ³			※	

※残土量 = (切土量 - 盛土量) ÷ 0.9

※残土量7.770m³は、坑口（工事用道路トンネル）ヤードの盛土に使用することや、発生土置き場へ運搬予定。計画が固まった段階で事業計画変更届にて提出する。

9 保存緑地及び植栽後の管理方法

※詳細については、静岡市等の関係箇所と協議のうえ決定する。

(1) 管理体制

管理責任者 事業者 東海旅客鉄道株式会社 静岡県工事 現地事務所長

(2) 管理方法

○残置森林 業者に委託して管理を行う。

- ・間伐：年1回（樹齢時期等を考慮して実施）
- ・病虫害駆除：樹木の状態により実施

○造成森林（平地、小段：検討中）

業者に委託して管理を行う。

- ・生育状況や外来種の進入などの点検
- ・草刈り：年1回（7月）必要に応じて
- ・未定着の箇所の補植
- ・病虫害駆除：草木の状態により実施

○造成緑地（法面：検討中）

業者に委託して管理を行う。

- ・生育状況や外来種の進入などの点検
- ・草刈り：年1回（7月）必要に応じて
- ・未定着の箇所の補植
- ・病虫害駆除：草木の状態により実施

(案)

10 添付資料

- (1) 現況写真
- (2) 位置図(50,000分の1)
- (3) 緑化計画平面図
- (4) 地形勾配現況図
- (5) 植生現況図
- (6) 緑化模式図
- (7) その他参考図(土地利用計画平面図、造成計画平面図)
- (8) その他必要とする資料
 - ・航空写真平面図
 - ・主な工事施工ヤードの回避等検討位置図
 - ・希少猛禽類飛行軌跡図(平成29年11月～平成30年7月)
 - ・「静岡県内中央新幹線建設工事に伴う宿舎等工事における環境保全について平成30(2018)年9月」
 - ・「静岡県内中央新幹線建設工事に伴う工事施工ヤードA造成作業等(宿舎等工事関連)における環境保全について平成31年(2019年)3月」
 - ・「中央新幹線南アルプストンネル新設(静岡工区)工事及び静岡県内導水路トンネル新設工事における環境保全について(トンネル工事施工ヤード造成作業等)令和元年5月」

- ※ 本自然環境保全計画書の内容が変更となった場合や、トンネル掘削工事や発生土置き場造成作業等に係る内容を追加する場合などにおいては、事前に県へ相談のうえ、計画が固まった段階で事業計画変更届(届出者名義は中央新幹線建設部長とする。)を提出することとする。
- ※ その他の各種届出(工事着手(完了、中止)届等)について、届出者名義は中央新幹線建設部長として、届出を行う。